

オピニオン opinion

○山梨県酒造組合

会長 北原 兵庫氏

(山梨銘醸株式会社 代表取締役社長)



酒造りへの挑戦を続けて

現在、山梨県内には15軒の酒蔵があり、古くは300年前から酒造りに取り組んできました。

「銘醸地に名水あり」という言葉のとおり、山梨の良質な湧水を使い杜氏の優れた技により風味豊かな酒造りに取り組んでいます。

全国の酒蔵は、日本酒出荷量がピークとなった昭和50年には3,000軒を超えていましたが、今では半分の1,500軒にまで減少しています。多様化する消費者の嗜好や生活スタイルの変化などから清酒の消費量も年々減少しています。こうした状況を乗り切るためには、それぞれの酒蔵の取り組みに加えて、業界全体としての取り組みも重要な時代になっています。

そこで組合では、後継者に技術の伝承だけでなく「心や人間性」に磨きを掛けて酒造りに取り組んでもらいたいと考え、毎月の定例会をはじめ組合の様々なイベントなどに各社の代表者に加えて後継者達にも積極的に出席いただき、次世代の人材育成に取り組んでいます。

次に、これまで毎年県内外で年間20回以上の試飲会や物産展、日本食等を堪能しながらのイベント等を実施してきましたが、更なる需要開拓のために、平成25年からはベトナムでの商談会も開催しています。和食が日本人の伝統的な食文化としてユネスコ無形文化遺産に登録されたことも追い風になり、県内の日本酒の輸出量は年々増加しています。

また、山梨県にはオリジナルの酒造好適米がなく、これまでは県外から提供してもらった酒米種子で酒づくりを行ってきました。これからの酒造りを考えた時に山梨県オリジナルの酒造好適米の開発が必要と考え、山梨大学や工業技術センターなどと連携を始めています。実用化までには10年程の時間が必要だと思いますが、次世代の業界発展のために第一歩を踏み出しました。

日本酒造りは日本の風土に根ざした文化です。伝統の技と良質な素材を大切にしながら失敗や変化を恐れず様々な可能性に挑戦していきたいと考えています。